



第22号

徳島高P連

徳島県高等学校 PTA 連合会 だより

2020.1.27

発行・編集
徳島県高等学校PTA連合会事務局

〒770-0003
徳島市北田宮1丁目8番68号(教育会館2F)
TEL.088-678-7776 FAX.088-678-7776
HP <http://www.tokukoup.com/>
E-mail tokuoup@jewel.ocn.ne.jp
印刷:浜田印刷

目次

2 大学入学共通テスト
2021年1月実施予定の
大学入学共通テスト、英語
民間試験の活用見送りに
続き、国語・数学での記述式
導入も撤回

3 国語・数学の記述式
導入撤回
大学入試改革の変遷

4 令和元年度
単位PTA会長・
副会長研修会
並びに家庭教育
研修会報告

5 令和元年度
単位PTA会長・
副会長研修会 並びに
家庭教育研修会に参加して

6 第69回
全国高等学校
PTA連合会大会
京都大会報告

7 第69回
全国高P連大会
京都大会に参加して

8 第62回
中・四国高P連大会
広島大会

第70回
全国高P連大会
島根大会

令和2年度
事業計画
年度当初各種報告書
等締切日
高P連会費の納入
について



これからの「学力」とは

- | | | |
|---------------|---|--------------------|
| 新しい | 学力 | これからの「学力」とは |
| ● 知識・技能 | 十分な知識・技能を習得する | |
| ● 思考力・判断力・表現力 | 自ら課題を見出し、その解決に向けて探しし、成果等を差し出すために必要な「思考力・判断力・表現力等の能力」を育む | |
| ● 主体性・多様性・協働性 | これからの時代に社会で生きていったために必要な「主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度」を養う | |

21 大学入学共通テスト

2021年1月実施予定の大学入学共通テスト、英語民間試験の活用見送りに続き、国語・数学で

大学入学共通テストへの記述式導入は、1979年に始まつた「共通テスト試験」、1990年から大改革と位置づけられた。第2次安倍政権が設けた教育再生実行会議が、共通テストにつながる入試制度の変更を提言したのが2013年。以来、文科省が最も力を入れる教育政策として6年あまりを費やしてきた。最大の目玉が英語民間検定試験の導入と記述式問題の導入であつた。

令和元年11月1日、萩生田文部科学大臣は、閣議後の記者会見で、大学入学共通テストへの英語民間検定試験の導入について「自信を持つて受験生に薦められるシステムになつていらない」と述べた。2020年度は見送るところを発表した。民間試験の実施団体との連携調整が十分でないことも理由に挙げた。この日、具体的に決まったのは3点ある。・2020年度の英語民間試験の導入は延期とする。
・共通テストの英語は2021年1月に実施する。
・新たな英語試験を今後一年かけて検討し、2024年度（現中学1年生）から

入の実施を目指す／英語試験の成績提供システム」を注意が必要となる様とする。21年度入試でも各大学が基準で英語民間試験の成績を大学入試で使うことは可能な点だ。これまで英語民間試験を独自に選抜に利用していた大学もある。ただ、民間試験の問題点が多く指摘され、「延期」になった経緯から、新たに民間試験を利用する予定だった各大学は慎重に利用の可否を検討することになるとみられる。現2年生は、各大学が今後発表する、21年度入試の詳細を確認することが大切だ。

が含まれる。共通テストでは、4技能を直接測る民間検定試験の導入を前提に、この出題の廃止方針が示された。民間試験導入は結局見送られたが、出題の廃止に変更はない見通しだ。

24年度 新制度めざす 「発言格差露呈」の丈

英語民間試験 見送り

「身の丈」発言格差露呈 24年度新制度めざす	
大手会社が主導する「身の丈」発言格差露呈	新規登録者数は年々増加傾向にあるが、登録者数と実際の意見投稿数との乖離が大きくなっている。また、意見投稿数は年々減少傾向にある。
「身の丈」発言格差露呈	新規登録者数は年々増加傾向にあるが、登録者数と実際の意見投稿数との乖離が大きくなっている。また、意見投稿数は年々減少傾向にある。
やむをえない判断	新規登録者数は年々増加傾向にあるが、登録者数と実際の意見投稿数との乖離が大きくなっている。また、意見投稿数は年々減少傾向にある。
観点	新規登録者数は年々増加傾向にあるが、登録者数と実際の意見投稿数との乖離が大きくなっている。また、意見投稿数は年々減少傾向にある。

注意すべき点は、センター試験では読む・聞くの配点が200点・500点であったが、共通テストでは、100・1000点となり、聞く（リスニング）の比重が大きくなる。設問がすべて英語になるため、リスニング問題では、センター試験は、問題文を2回読みしていたが、共通テストでは2回読みと1回読みの両方で構成されるなど、難しくなることが予想されている。

読む	聞く	書く	話す
○ 200点	○ 50点	間接的に出題 (語句整序や発音)	
○ 100点	○ 100点	廃止 変更せず	
○	○	○	○

英語試験出題の変化

大学入試センター試験
(~2019年度)

大学入学共通テスト
(2020年度～)
民間検定試験
(共通テストの枠内)

2020.1.27

第 22 号 德 島 高 P 連 だ よ り

専門

美術 雑誌

1892年3月17日

国・数の記述式自紙撤回 共通テスト文科相、欠陥認めめる

2020年度から始まる大学入学共通テストで選入予定だった国語と数学の記述式問題について、萩生田光一文科相は「採点ミスを完全になくすには限界がある」と述べ、導入を見送ることを表明した。また、「今回、令和3年1月の大学入学共通テストでは記述式問題は実施せ

(国語・数学の記述式導入撤回)
英語民間試験に続き、国語・数学の記述式についても導入を見送ることを17日の閣議後記者会見で表明した。民間企業が担う採点でミスが起きる懸念や、受験生による自己採点の精度が低くなるといった課題への抜本的解決策を見いだせなかつたと説明。「受験生の不安を払拭し、安心して受験できる体制を早急に整えることは困難だと判断した」と述べ、期限を示さなかった。

また、「今回、令和3年1月の大学入学共通テストでは記述式問題は実施せ

ず、導入見送りを判断したが、各大学の個別選抜において記述式問題の活用に積極的に取り組んでいただきたと考へており、文部科学省として、各大学に対してもうした取組をお願いしている」と思う。また、私の下に設置する検討会議において、共通テストや各大学の個別選抜における記述式問題の在り方など大学入試における記述式の充実策についても検討してまいりたいと考えている」と述べるなど、今後も入試制度について糾余曲折が考えら

本來、入試改革は、各大学の個別入試や、高校や大学の授業改革と一緒に進めるべきであり、今回の理念は思考力や主体性を育むことにあつた。その主旨が生かされ改革の理念は思考力や主体性を育むことにつれていた。そこで、今回の入試改革全般にわたり検証をするべきであろう。さらに今後の入試改革について、生徒が培つた力を、しっかりと評価できる出題形式についていただけであつた。

(英語民間試験)
2020年度に始まる大学入学共通テストで、「読む・聞く・話す・書く」の4技能を評価するために活用される予定だった。一度に数十万人が受験するため、特に「話す」試験は設備の整備や採点が難しく、20年度は大学入試センターが認定した7種類の試験を活用。各試験の成績は6段階で評価され、国のシステムを通じて大学に送られることになっていた。

(記述式問題)
2020年度開始の大学共通テストでは、マークシート式の選択問題に加え、国語では文章を、数学では式などを書かせる記述式が3問ずつ出され、思考力・判断力・表現力を測る予定だった。数学は記述式も点数化するが、国語は3問を総合し、5段階で評価することになつていた。

「採点ミス、完全になくすには限界」
文部省は1月1日、記述式と並ぶ共通テストの柱だ。見送りを決めており、大学入試改革は「被覆範囲失った」。共通テスト開設は、主に現行の大学入試センター試験であることを認めた。

「思考力・判断力・表現力」
文部省は1月1日、記述式と並ぶ共通テストの柱だ。見送りを決めており、大学入試改革は「被覆範囲失った」。共通テスト開設は、主に現行の大学入試センター試験であることを認めた。

大学入試改革の変遷

1979年	第1回共通1次試験
85年	臨時教育審議会が「国公私立大が自由に利用できる共通テスト」を求める。
90年	第1回大学入試センター試験慶應大でAO入試が始まる
2013年	教育再生実行会議がセンター試験の後継テスト導入を提言。「知識偏重の1点計り」からの脱却を求める。
14年	中央教育審議会の答申。新テストでの記述式導入と英語4技能を測る方針を示す。
17年	文部省が大学入学共通テストの実施方針を発表。
19年	萩生田光一文科相が英語の民間試験活用に続き、記述式導入見送りを表明。

令和元年度

令和元年度 単位PTA会長・副会長研修会報告 並びに家庭教育研修会報告

単位PTA会長・副会長研修会並びに家庭教育研修会が令和元年10月5日(土)、午後1時より、ホテル千秋閣を会場として開催された。例年は家庭教育研修会を単独で実施していたが、会長・副会長にも研修に参加して頂くという意図で、2つの研修を同時に実施した。

研修会は、加美美紀氏(高P連幹事・富岡西高校PTA会長)の司会・進行で始まり、東條賀司会長(高P連会長・城東高校PTA会長)が開会の挨拶を述べた後、岡富士子氏(高P連副会長・徳島商業高校PTA会長)が講師を紹介した。

講師には、山下真司氏(株式会社リクルートマーケティングパートナーズキヤリアガイドンス編集長)をお迎えし、「Society5.0」時代高校生の保護者の役割～～わが子が新しい時代を生き抜くには?高校3年間、どう育つ?保護者の役割はどう題して講演していた。内容は、『みなさんにとって20年間はどうだったか。社会が大きく変わってきたことは過去を振り返れば分かる。子どもたちにとって、20年後の社会がどうなつていて、そこでどうやって生きていかが重要だ。今は正解のない世の中になつている。あらかじめマニフェルがあって、計画があると予定通り進むかというと、そうはないか。どうやつて自分で考えて行動するか、主体性を持つて働かなければならない。日本の社会では「勤めあげる」と言うことが普通に使われていたが、今はぼほ死

語になった。人生100年のこれからの中の世界では、いくつもの職業をエンジしていくことが求められる。企業の採用選考で何を重視しているかというと、①コミュニケーション能力、②主体性、③チャレンジ精神となる。特にコミュニケーション能力に重点が置かれている。どんな職業でも、コミュニケーション能力は絶対に必要だ。

Society5.0とは何だろう。これからは、超スマート社会と言われ、経済の発展と社会的課題の解決の両立を目指す人間中心の社会とされる。あくまでも持続可能な社会を人間を中心としてどうやって創っていくのかが議論されている。それがSociety5.0だ。

子どもたちは「口ボット」と一緒に働く時代を生きる。アメリカ人のティッド・ティンタースミス氏は、今の教育に疑問を持った。高校3年間、どう育つ?保護者の役割はどう題して講演していた。内容は、『みなさんにとって20年間はどうだったか。社会が大きく変わってきたことは過去を振り返れば分かる。子どもたちにとって、20年後の社会がどうなつていて、そこでどうやって生きていかが重要だ。今は正解のない世の中になつている。あらかじめマニフェルがあると予定通り進むかというと、そうはないか。どうやつて自分で考えて行動するか、主体性を持つて働かなければならない。日本の社会では「勤めあげる」と言うことが普通に使われていたが、今はぼほ死

が捉え直されている。この学力をどうやって測り評価すれば良いのか、現行のセンター試験はどちらかといえば知識、技能に重点があり、個別テストに考える問題が出されている。今回の大学入学共通テストは、考える問題をきちんと入れていく、覚えて終わではなく使える知識に変えていく。各大學は主体性や多样性、協働性を評価できるようにしていこうと、ポートフォリオという学びの記録をつけたり、小論文やエッセイを書いて、その人がどういう価値観や行動を持っているか、いろんな角度から評価してくれる。ポーティング精神なども評価される。学力の3要素や、自分でどんだけ創つていいくのかが議論されている。それがSociety5.0だ。

子どもたちは「口ボット」と一緒に働く時代を生きる。アメリカ人のティッド・ティンタースミス氏は、今の教育に疑問を持った。高校3年間、どう育つ?保護者の役割はどう題して講演していた。内容は、『みなさんにとって20年間はどうだったか。社会が大きく変わってきたことは過去を振り返れば分かる。子どもたちにとって、20年後の社会がどうなつていて、そこでどうやって生きていかが重要だ。今は正解のない世の中になつている。あらかじめマニフェルがあると予定通り進むかというと、そうはないか。どうやつて自分で考えて行動するか、主体性を持つて働かなければならない。日本の社会では「勤めあげる」と言うことが普通に使われていたが、今はぼほ死

ることとしている。

学習方法については、主体的、対話的で、深い学びを可能とするアクティブラーニングが注目されている。学校における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにするためのものだ。「教わる」から「学ぶ」へのハラダイン転換が求められている。

これから生きるわが子に、保護者としてどう関わっていくか。子供とのコミュニケーションのあり方が、「自立」に向けた大きな支援となると考えられる。総合的な探究の時間、部活動、ボランティアにどう取り組んだか、などが記録される。学力の3要素や、自分でどんなり組みをしたかを表現する。そういう調査書に変化する。学力の3要素を含む7項目を組み合わせて大学は評価してくる。子どもの3年間の学びがきちんと評価されるということだ。

高校の教育が変わってきている。学習指導要領が変わって、2022年度から移行する。日本史と世界史の垣根を払つた「歴史総合」や、また数学と理科の垣根をなくした「理数探究」などが始まる。学ぶ内容は変わらないが、枠組みが変わる。

総合的な学習の時間が総合的な探究の時間に変わり、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方針と関連付けながら、自ら問いを見いだし探求することのできる力を育成す

ることとしている。

学習方法については、主体的、対話的で、深い学びを可能とするアクティブラーニングが注目されている。学校における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにするためのものだ。「教わる」から「学ぶ」へのハラダイン転換が求められている。

これから生きるわが子に、保護者としてどう関わっていくか。子供とのコミュニケーションのあり方が、「自立」に向けた大きな支援となると考えられる。総合的な探究の時間、部活動、ボランティアにどう取り組んだか、などが記録される。学力の3要素や、自分でどんなり組みをしたかを表現する。そういう調査書に変化する。学力の3要素を含む7項目を組み合わせて大学は評価してくる。子どもの3年間の学びがきちんと評価されるということだ。

高校の教育が変わってきている。学習指導要領が変わって、2022年度から移行する。日本史と世界史の垣根を払つた「歴史総合」や、また数学と理科の垣根をなくした「理数探究」などが始まる。学ぶ内容は変わらないが、枠組みが変わる。

総合的な学習の時間が総合的な探究の時間に変わり、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方針と関連付けながら、自ら問い合わせられる。②やること／弱みに対しても励ます、③夢や希望を育む、これらが保護者の役割の「3H」でも大切なこととして講演を開じられた。

最後に、山元みどり氏(高P連幹事・城南高校PTA会長)が謝辞を述べ、研修会を閉会した。43校から171名の参加があった。

令和元年度

令和元年度 単位PTA会長・副会長研修会 並びに家庭教育研修会に参加して



徳島県立
城南高等学校PTA
会長 山元みどり

10月5日(土)、ホテル千秋閣にて、
高P連主催令和元年度単位PTA会長・
副会長研修会並びに家庭教育研修会が
開催されました。

本年度は、株式会社リクルートマーケ
ティングパートナーズ キャリアガイド
ンス編集長の山下真司氏をお迎えし、「Soc
iety5.0 時代 高校生の保護者
者の役割」～わが子が新しい時代を生き
抜くには？ 高校3年間、どう育つ？ 保
護者の役割は～と題してご講演をいただきました。

Society5.0 という新たな社会。A
ーやロボットと共にしていく時代となり
社会が大きく変わらうとしています。
20年後には約半分の仕事が自動化され
ると想われる未来を求められる
人材や働き方が変わり、求められる能力
も大きく変わり始めるようです。社会
構造が変わっていく中で、子どもたちの
ためにどのような力が必要かを教えて
いただきました。そして、子どもたち
が、これらの社会を生き抜くための必
要な力を身につけることができるよう
学びの在り方が改革され、新しい時代に
ふさわしい高大接続の実現に向けた教

育改革や入試改革が行われることをさ

明いただきました。

新たな時代に向けて、「主体的・対話

的深い学び」へと変わり、「学びを人

生や社会に活かそうとする学びに向か

う力・人間性の育成」「生きる知識・技

能の習得」「未知の状況にも対応でき

る思考力・判断力・表現力の育成」の実

現を目指している。基礎的な知識・技

能を習得するとともに、主体的に学び続

け、感性を働かせながら目指すべき未来

を考へ、多様な人と協働することが重

要になってくると話されました。そし



て、大切なのは「学ぶ目的」であり、「なぜ学ぶのか？」を考え、自分なりの答え
が見えてくると、日々の授業が自分の將
來・社会へとつながることです。「教室は未來につながっている」とされ
今、子どもたちの目の前にあることは將
来につながり、学校での学びは子どもた
ちの生き抜く力になるのです。

最後に、大きく変わる「これから」を
生きる子どもたちのための保護者とし
ての役割は、子どもたちの可能性を信じ
て任せせる姿勢を保ち、「保護者」から「自
立支援者」になるべきとのお話をあり
ととも印象に残りました。保護者の役

割「3H」は①子どもの強みに対する褒
め、②やること・弱みに対して励ま
す、③夢や希望を育むということです。
自立心を育てる親子「ミニユニーケー
ション」を大切にし、親子共々、未来に向
けて真剣に取り組み子どもの可能性を
信じて、社会に貢献できる大人になれる

よう導くことができればと強く感じま
した。子どもの未来のために保護者と
してどう関わっていくか、深く考える良
い機会となりました。

今回の講演に際し、ご尽力いただいた
関係者の皆様方に心より感謝申し上げ
ます。ありがとうございました。



研修会で使用したスライドの資料PDFは、徳島高P連ホームページの行事予告・報告からリンクでみられます。

69 第69回
全国高等学校PTA連合会大会
京都大会報告

第 22 号 德島高連だよ

京都大会が、8月22日(木)、23日(金)の2日間、京都市勧業館みやこめつせん口で開催された。この大会は、P.T.A連合会大会として、『K.Y.O.から』『京都の地から』『大会の今日から』『共に協力して』『家庭教育から』などとの思いが込められている。「未来を拓く」はこれまで蓄えてきた財産をもとに、子どもたちの未来や今後のP.T.A活動を創り上げるきっかけとなる大会にしてほしい」と願い、「テーマに設定された。

開会行事では、実行委員会の奥野貴史委員長から、「来年の島根大会から新しい形の大会になるが、京都大会はこれまでの大会の良いところを総結しながら、全国大会への架け橋として役割を担いたい」と考え、「K.Y.O.から! 未来を拓く」受け継ぎ、創る新たなストーリーをテーマとして、様々な新たな取り組みで準備を進めてきた。との挨拶があつた。続いて、一般社団法人全国高等学校P.T.A連合会の牧田和樹会長から、「子どもたちを育てていく過程で、子どもたちといっしょに何ができるのか、子どもたちの人生に何を与えることができるのか。我々P.T.Aは家庭という場所で子どもたちの教育の一端になつていている。その子どもたちがよりよい人生をおくれることこそが我々の活動の大きな目標なのではないか。」との挨拶があった。

来賓から、文部科学副大臣永岡桂子氏、復興副大臣橋慶一郎氏、京都府知事西村義勝氏、後藤俊氏、京都市長門大作氏が祝辞を述べられた後、文部科学大臣及び全国高P連会長から団体個人への表彰式が行われた。本県関係では、全国高P連会長個人表彰に上原稔子氏（城南高校前会長）、山形拓生氏（城東高校前会長）、全国高P連役員等表彰に稻井弘明氏（吉野川高校前会長）がそれぞれ受賞した。その後6会場に分かれて、分科会が開催された。

第一分科会では、「よくできる」とはどういうことか？――大学は、自分の可能性を見つける場である――をテーマとして、京都産業大学名誉教授で歌人の永田和宏氏の基調講演と「バネルティ・イスカンショーン」が行われた。基調講演では、「高校は学習の場」であるが、「大学は学問の場、すなわち異なる学ぶ場でなく、学んで問題直す場である、なぜ学ばねばならないのか？」という問いに対し、自己の可能性の信頼や「自分はできるんだ！」という確信を持つために学問するとされ、他人の評価で自分の限界を変えたりしないことや、挑戦や挫折の必要性を訴えられた。

第2分科会では、「子どもたちを育む環境づくり」～地域社会の現状と次世代～を見えてくるをテーマとして、小グループによる意見交換会が行われた。これまでの子育てを振り返り、地域の中で子どもを育てる上で、子どもとのように向き合えば良いかをテーマに話し合われた。

第3分科会では、「すぐそこの未来のこと」～とともに考えるSociety5.0において

もたちが今後生きていく近未来の予測と、これからからの教育への期待、また学級経営の「CLASS」を参加する人が体験し教室の中から学びを変えるイノベーションについて語っていたいたい。

第4分科会では、「高校生の人の間関係について考える」、高校生の本音を聞いてみませんか? をテーマに、佛教大学副学長の原清治氏の基調講演と平成30年度度業生5名によるパネルディスカッションが行われた。講演では、様々なテーマから見えてくるのが、高校生の人の間関係について話され、「卒業したからこそ言える」「親にこんなことをしてほしかった」「先生にこんなことをしてほしかった」をテーマに、本音を語るディスカッションがなされた。

第5分科会では、「情報教育を体験する」「現代の子どもが学ぶ情報教育を体験してみませんか?」をテーマに、LINE株式会社の公私政策から3名を講師に招いて、全国大会では初めてのワークショップを実施した。

第6分科会では、「我が子の進路選択について向き合う?」へ入試が変わる、授業が変わる・動き出した教育改革? をテーマに、リクルート・キャリアガイダンス編集部長・石田勝紀氏が講演を行った。山下氏から現れる「子どもたちが歩むこれからの社会は?」「大学教育、高校教育、そして入試が変わるもの。新しい時代にふさわしい高大接続の実現」「これからを生きる子どもたちと保護者としてどう関わっていくか」という3つ

たが、多くはブランド大学志向と偏見感覚教育を受け、就職もブランド企業を主選択している。受験指導は、暗躍の尺度ではなく、就職後の活躍の尺度で、実験室で、ブランド大学と、そうでない大学で、差異はない。一方アメリカでは、難関大学を優秀な成績で卒業したものは、企業に入ったり、起業したりして、就職しておらず、日本と全く異なる。日本での偏差値教育とブランド志向が教育を歪めている。

たくさんの大を見見て回ったが、似たものだった。理事長になつて、まず第一に学生が眠たくならない講義をすることを要とした。大学ができないことが、3点あり、一つはグローバル化で、すべて英語で授業することを求めた。2つ目は、専門教育ができるしない。3つ目は、家庭教育で、挨拶やしつけ、本末先后の教育でやるべきことができない。これら3つのことも全部大学でやつた。そして、卒業するときにブランド企業を選ばないといふ。これから伸びる企業を選ばないといふ。母親と話して、だめになることが多い。相変わらずブランド大学、ブランド企業がいいといふ。そこには母親です」と、ハフルに、ヨーヨーアたっぷりに教育に対する思いを述べられた。

その後、分科会報告に続き、閉会行事に移り、全国高P連旗は次期開催県の島根県へ引き継がれ、京都大会は閉会した。徳島県からは44名が参加した。

をテーマに、株式会社片岡製作所代表取締役の片岡宏二氏、Class一株式会社代表取締役副社長藤原啓氏により、その後バーネルディスク力ツ講演があり、その後パネルディスカッションが行われた。講演の内容は、「アート」と「アーティスト」の関係性について求められる人材像、学びの在り方について

の話題を挙げてお話ししいただいた。
23日の記念講演では、日本電産株式会
社取締役会長・永守重信氏を講師とし
て、「学校教育・家庭教育を思うこと」を
題して記念講演が行われた。講演内容は
「見栄を出さず、現実を正視する教科書」

第69回

69

第69回 全国高P連大会京都大会に参加して

徳島県立
城北高等学校PTA
会長 菊川 公美恵

第69回全国高等学校PTA連合会大會が、令和元年8月22日・23日の二日間、京都市勧業館みやこめつせ及びロームシアターにて「KYOのから」未来を拓く〜受け継ぎ、創る新たなストーリーをテーマとして開催され、城北高校からは、4名が参加させていただきました。

メインテーマの「KYOのから」には、「京都の地から」「今日から」「協力して」「(家庭)教育から」等の思いが込められています。「未来に拓く」は、過去に開催された全国大会や各地域の様々な研修会で蓄えられた財産を元に、子どもたちの未来や今後のPTA活動を創り上げるきっかけとなる大会にしたいとしています。

初日の午後、開会式に先立ち、アトラクションとして、京都府立工業高校吹奏楽部「Mambou Jazz Band」によるジャズ演奏が披露され、ジャズを基調にした、独特で心温まる歓迎を受けました。続いて何人かの式辞、祝辞が述べられました。その中で私が印象に残っているのは、和服姿の京都市長の祝辞です。明

治維新の東京遷都で「都」の地位を失い意氣消沈の時代に、地域で子どもをしっかり育てれば、この子どもたちが、将来必ずや未来を切り拓いてくれると願い、日本で最初に学校を作ったのが京都だと話されていました。子どもの教育を思う考え方へ感銘を受けました。

また表彰式では、本県から、会長個人表彰に城南高等学校前PTA会長上原稔子様、城東高等学校PTA前

会長 山形拓生様、役員表彰で徳島県高等学校PTA連合会前会長 稲井弘明様が受賞されました。今までのPTA活動へのご尽力に感謝申し上げます。

その後、分科会へ分かれて、私は第6分科会に参加させていただきました。

「我が子の進路選択はどう向き合う?」と入試が変わる、授業が変わる・動き出した教育改革」のテーマで、2人の講演を聞く事ができました。

一人目は、リクルート「キャリアガイド」編集長 山下真司氏でした。現高2生から始まる「大学共通テスト」に向けての教育改革において、学習内容がどのように変わっていくのか、非常に分かりやすく説明していただきました。

A-I-O-Tなど、社会の構造が目まぐるしく変化していく中で、子どもたちが、夢や目標に向かって、それを実現できるようにするにはどうすれば良いのかを知る事ができました。これからの時代は、一人一人の学びが高く評価され、主体的に教わるのではなく、自らが学んでいく姿勢が大切になります。それには、子どもたちと私たち保護者とのコミュニケーションの在り方が重要で、親子の会話が多いほど、子どもたちは前向きに頑張ろうと思えるようになるそうです。

二人目は、一般社団法人教育デザイナラボ代表理事、石田勝紀氏でした。A一世代を生きる子どもたちの「才能」を引き出す言葉と題して、自己肯定感を引き上げる言葉、「親の気分」で謝申し上げます。



会長 山形拓生様、役員表彰で徳島県高等学校PTA連合会前会長 稲井弘明様が受賞されました。今までのPTA活動へのご尽力に感謝申し上げます。

その後、分科会へ分かれて、私は第6分科会に参加させていただきました。

「我が子の進路選択はどう向き合う?」と入試が変わる、授業が変わる・動き出した教育改革」のテーマで、2人の講演を聞く事ができました。

一人目は、リクルート「キャリアガイド」編集長 山下真司氏でした。現高2生から始まる「大学共通テスト」に向けての教育改革において、学習内容がどのように変わっていくのか、非常に分かりやすく説明していただきました。

A-I-O-Tなど、社会の構造が目まぐるしく変化していく中で、子どもたちが、夢や目標に向かって、それを実現できるようにするにはどうすれば良いのかを知る事ができました。これからの時代は、一人一人の学びが高く評価され、主体的に教わるのではなく、自らが学んでいく姿勢が大切になります。それには、子どもたちと私たち保護者とのコミュニケーションの在り方が重要で、親子の会話が多いほど、子どもたちは前向きに頑張ろうと思えるようになるそうです。

二人目は、一般社団法人教育デザイナラボ代表理事、石田勝紀氏でした。A一世代を生きる子どもたちの「才能」を引き出す言葉と題して、自己肯定感を引き上げる言葉、「親の気分」で謝申し上げます。

第62回中・四国高P連大会広島大会

～徳島大会の前年度大会にあたるため、
多数のご参加にご協力ください～

日 時： 令和2年7月10日(金)
場所：広島市文化交流会館

日 程： 1泊2日
(7月9日出発、7月10日帰県)

本県からの参加者 約120名を予定!!

第70回全国高P連大会島根大会

～中・四国ブロックでの
全国大会開催となるため、
多数のご参加にご協力ください～

日 時： 令和2年8月20日(木)
・21日(金)
場所：島根県民会館他

日 程： 1泊2日
(8月20日出発、8月21日帰県)

本県からの参加者 約80名を予定!!

2 令和2年度 事 業 計 画		
5. 30(土) 第1回理事会	(教育会館)	
6. 12(金) 県高等学校PTA連合会並びに 県高等学校PTA連合会安全互助会総会 県高等学校生徒生活指導連絡協議会総会	(教育会館)	
6. 19(金) 中国・四国地区 高等学校PTA連合会総会	(広 島)	
6. 20(土) 第63回中国・四国地区 高等学校PTA連合会大会(徳島大会) 第1回実行委員会	(教育会館)	
6. 27(土) 全国高等学校PTA連合会 -28(日) 第1回総会・各種委員会	(東 京)	
7. 10(金) 第62回中国・四国地区 高等学校PTA連合会大会(広島大会)	(広 島)	
8. 20(木) 第70回全国 -21(金) 高等学校PTA連合会大会(島根大会)	(島 根)	
10. 3(土) 全国高等学校PTA連合会 - 4(日) 会長・事務局長会議、各種委員会	(大 阪)	
11. 13(金) 中国・四国地区 高等学校PTA連合会 理事会・事務局長会議	(広 島)	
R3. 2. 6(土) 全国高等学校PTA連合会 - 7(日) 第2回総会、会長・事務局長会議、 各種委員会	(東 京)	
3. 5(金) 中国・四国地区 高等学校PTA連合会 事務局職員連絡会議	(広 島)	

令和2年度 年度当初各種報告書等締切日 (各単P→県高P連)		
No	報 告 書 等	締切日
1	会費納入	5月25日(月)
2	役員名簿報告書	5月15日(金)
3	被表彰者推薦書	5月15日(金)
4	総会参加者報告書	5月25日(月)
5	理事会(単P会長会)参加者報告書	5月15日(金)
6	安全互助会届出書	5月25日(月)
7	学校基本調査生徒数報告書	5月15日(金)
8	全国高P連賠償責任補償制度掛金納入	5月25日(月)

●令和2年度 高P連会費の納入について

◎全日制(本校)

400円 × 生徒数 + 均等割 3,000円

●全日制(分校)

400円 × 生徒数

◇中央高校・特別支援学校(本校)

140円 × 生徒数 + 均等割 3,000円

◆定期制(本校併設)・特別支援学校(分校)

140円 × 生徒数

<お願い>

上記の計算で、「徳島県高等学校PTA連合会」への
専用振込用紙にて、5月25日までに納入してください
ますようお願いいたします。